

## 第1回双葉町復興町民委員会 議事概要

■日 時：平成28年6月24日（金） 午後1時00分～午後3時00分

■場 所：双葉町いわき事務所 2階大会議室

■出席者：復興町民委員会委員、アドバイザー

国、福島県、双葉町、

事務局（復興推進課、双葉町復興まちづくり計画（第二次）策定業務受託者）

（参照：第1回双葉町復興町民委員会座席表）

### ■決定事項

- ・田中清一郎委員を委員長、岡村隆夫委員を副委員長とする。
- ・会議の公開について了承した。

### ■議事概要

1.開会（略）

2.委嘱状交付（略）

3.町長あいさつ（略）

4.開催にあたって

（1）開催趣旨について（資料3、4）

（2）双葉町復興町民委員会設置要綱について（資料5）

（3）復興まちづくり計画（第二次）の策定スケジュールについて（資料6）

間野博アドバイザー）第一次計画と第二次計画の関係はどうか。第一次計画は廃止ということなのか。要綱を見ると、事業計画は復興計画に基づき毎年作るとしている。進捗管理を行うともある。委員会は1年で終わるのではなく、継続していくものなのか。

事務局）第一次計画は明確に廃止とは考えていない。第一次計画は4年間の施策で平成29年6月までをまとめたものである。復興まちづくり計画と事業計画があるが、事業計画については毎年更新をする。年内に第二次計画策定を予定しているが、来年度の事業計画についても同時に策定する。それについて意見を伺いたい。昨年の委員会の中で提言として出したが、どう反映されていくのかフォローアップしたいという話もあった。昨年の提言を踏まえて何をしたのか町として報告していきたいので、そういう意味で進捗管理ということである。

間野博アドバイザー）この委員会は年度内ということか。

事務局 そのつもりである。

横山久勝委員 夏頃、国から帰還困難区域の今後の方針発表とあるが、それまで方向性がわからない中で議論するのか。

事務局 現時点ではそれ以上の情報はない。ただ、方針が出てから議論をするのは遅すぎると感じている。

横山久勝委員 方針が出るまでは何もない中で議論をするのか。

事務局 JR 双葉駅の西側について、どんな機能が必要か、現状困っていることは何かという点は議論できると考える。

## 5. 協議事項

### (1) 委員長及び副委員長の選任について

- ・事務局案で異議なし
- ・委員長を田中清一郎委員、副委員長を岡村隆夫委員とする。

#### (田中清一郎委員長あいさつ)

- ・早く復興をしてもらいたいという思いである。双葉町と大熊町の環境は、どちらも 96% の帰還困難区域である点で共通する。また、中間貯蔵施設も国から押し付けられたことも同じである。しかし、現在は、相当な格差があると双葉町民の多くが思っている。双葉町は、県外に 2 年 6 ヶ月間くらい避難していた。町長は大熊町に追いつこうということで、町長を引き受けた。しかし、3 年経ったが、まだ委員会を作っている。昨年度、具体的に復興拠点や再生可能エネルギーなどを実施してほしいと答申したが、4 月や 5 月になっても動きが見えない。昨年度の委員会でまとめた計画はどうするのか、という話があったが、全くそのとおりでない。もはや後はない。町民の総意でまとめたので、尊重してもらって町が先頭に立ってやってほしい。大熊町は既に給食センターを作ると発表になった。政府が「復旧復興創生の時代」だという。双葉はそういう環境にもない。インフラ整備もできていない。ようやく去年両竹・浜野地区の 4% が除染された。それくらいだ。町民は 5 年も仮設住宅という劣悪な環境で生活している。役場の職員も同じで精神的にもつらい思いをしているだろうが、頑張ってもらいたい。ここが正念場であり、最後のチャンスではないか。

#### (岡村隆夫副委員長あいさつ)

- ・委員長と同じ思いである。国が夏頃に発表するのは遅いが、町民が動きやすい、決定しやすい情報が少なすぎる。それを含めて今回の委員会で進めていきたい。

### (2) 会議の公開について (資料 7)

- ・異議なし

## 6.事務局説明

- (1) 双葉町のこれまでの復興計画（資料 8、9）
- (2) 「人の復興部会」と「町の復興部会」のおおまかな検討事項（資料 10、11）

間野博アドバイザー）今後想定される主な出来事について、平成 32 年に第二次計画の見直しとある。これは 4 年計画と考えられるのか。議論の時もそれを想定して議論することになるのか。4 年ということだとまさに目の前のことについての実施計画となる。

事務局）現在は 8 年計画で 4 年見直しを考えている。4 年は駅周辺整備計画としてはあまりにも短い。一方で、8 年間見直しがないと、その間の事業変化に対応することが難しい。4 年で見直せば復興庁の創生期間が 4 年後で終了するのと合わせることができる。二次計画は 8 年を見据えて、4 年後の改訂を想定している。

## 7.その他

伊藤吉夫委員）重要なのは廃炉の問題だ。8 月に国から出される帰還困難区域見直し方針の内容で今わかる範囲の情報があれば教えて欲しい。

内閣府阿部補佐）しっかりと検討したい。知事が東京に行った際に、国が責任を持って方針を示すべきと要望があった。中間貯蔵施設や廃炉について、復興庁中心となって進めていきたい。

伊藤吉夫委員）この点は非常に重要だ。町民が納得できるしっかりとしたものを出して欲しい。

木幡敏郎委員）平成 28 年の予定が気になる。平成 30 年に中野地区復興産業拠点とあるが、現状手がつけられていない。良い町にするならば、一日も早く進めて欲しい。いつ企業活動の開始ができるのか。できないならば、スケジュールを見直すことも必要ではないか又県道井手長塚線の早期整備を望みたい。

事務局）中野の産業拠点については本年に基本設計、測量、地質調査を発注した。都市計画認定に向けて準備を進めており、地権者向けの説明会も開催したい。平成 30 年頃までには基礎的なインフラ整備に取り組み、企業活動を開始したい。スピード感、スケジュール感を持って対応していく。

木幡敏郎委員）国にも大きく協力してほしい。今から企業が来てくれるように配慮してほしい。

復興庁田中参事官）土地が買えないと進められない。地権者が納得しないと進められない。国は工程どおりに財源措置をしたい。企業誘致については、国の努力でできることもあるが、民間企業を強制的に引っ張ってくることはできない。廃炉や中間貯蔵等のリスクの払拭をしていく必要があり、土地の売買の調整も含め、企業が立地するリスクを減らす努力をしていく。町や県と連携して進めていきたい。

菅本洋委員) 平成 30 年以降に中野地区産業拠点設置とあるが、双葉町も一緒になって進めてほしい。ここに研究所を作りたいという話もある。町も努力してほしい。

相樂比呂紀委員) 勝手に民間の土地をいじることはできないということであったが、中野地区の説明会について、住民の反応はどうだったのか。

事務局) 4 月中旬に説明会を開催した。説明会の中身については、基本構想は理解を得た。復興を進めて欲しいという意見が大半であった。町もそういった意見を踏まえて、進めていきたい。

藤田博司委員) 中間貯蔵施設について、地権者にあたっているようだが、町の復興計画を進めることについては、中間貯蔵を除いたものについての審議かと思う。その土地の人たちはどうなるのか、どう審議していくのか。

事務局) 中間貯蔵施設予定地ということで、図では網掛け部分である。中のまちづくりについては、町では行わないが、支援をどうするのかを、部会で議論することになると思う。

藤田博司委員) 中間貯蔵に対する町の対応を疑問に思う。予定地内にパークヒルズ住宅団地があるが住宅供給公社から町が引き受けて分譲したものであり、今は公社がないが町が窓口だ。大きな事業については、町役場が中心となって実施してきたと思う。中間貯蔵施設については、福島県全体の汚染処理の問題であるが、町が間に入って国と交渉する必要があるのではないかと。環境省が来て説明をしているが、町の復興を考えたときに、10分の1が中間貯蔵施設になるので、そのときの町民の復興に心配をしているようだが、良い方向に進めてもらいたい。環境省の説明の際に、住民票はまだあるが、それはおかしいのではないかとという質問があった。特例で住民票はそのままにできることになり、今は、町民のままである。町も中間貯蔵が必要ということであれば、用地価格の設定に町もその間に入ってほしいし、妥当な価格を示すよう町としても取り組んで欲しい。

田中清一郎委員長) 町長が不在であるため、町長に今の話を伝えて欲しい。国とも相談してほしい。

事務局) 7 月 21 日に町の復興部会、26 日に人の復興部会を行う。

## 8. 閉会（略）

以上

■開催状況

